

森將軍塚古墳のライトアップ事業について

【ご意見】（令和6年5月13日受付）

千曲橋ライトアップ事業が令和4年6月から日本遺産認定に関連し観光のシンボルとして再点灯、事業再開がなされています。光を活用し演出することは素晴らしいことだと考えています。そこで…かつて、森將軍塚古墳についてもライトアップがされていたと思いますし、現在も、古墳の北側斜面にはライトアップ設備があります。故障しているのかもしれませんが。

節電は重要ですが、なぜ、將軍塚古墳はライトアップを再開しないのでしょうか。館長はじめ職員は今使われていない設備があることを承知しているのでしょうか。LED化するなど計画はされているのでしょうか。

屋代地区開発が進められていますが一重山2号線のアイストップに將軍塚古墳が位置していますし、（仮称）スマートインターチェンジからの誘客のウェルカムポイント、集客の仕掛けとして、松本城天守のプロジェクションマッピングとまではいかないまでも、照明設備を大いに活用して、光に色や強さなど変化をつけて、ダイナミックで幻想的な観光のシンボルとして將軍塚古墳を光で包む事業再開をするべきではないでしょうか。ライトアップ事業として専門業者に効果的な運用面も含めて企画提案してもらって全国に誇れるものとなれば屋代地区の開発整備にも一役を担うものとなるのではないのでしょうか。ご期待しております。

このたびは貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。お寄せいただきました内容につきまして、下記のとおりご回答申し上げます。

【回答】

森將軍塚古墳のライトアップ設備については、古墳が復原された１９９２年に設置されたものです。その当時にライトアップを始めたものの、近隣住民を始め多くの方から「水銀灯の光の色が気持ち悪い、お墓にライトを当てるのは如何なものか」等の苦情が来たとのことで、ライトアップを中止した経緯があります。

現在の設備は、上記の理由に加え、設備の老朽化が進んでいるため、点灯はしていません。一方で、ご指摘いただいたように、近年ではエネルギー効率の高いＬＥＤ照明をはじめ、プロジェクションマッピング等多彩なライトアップの方法もあります。先進事例等を参考にしながら、長野県最大の前方後円墳である森將軍塚古墳をより多くの方々にＰＲできるように、市民の皆様にご理解いただけるようなライトアップの方法についても研究してまいります。

担当 森將軍塚古墳館